

緋後継者育成事業の 拡充を問う

答 これまでどおり支援していく



金城 憲治 議員



問 本町が補助する緋後継者育成事業は、これまでどのような育成事業を行ってきたか。

副町長 琉球緋後継者育成事業では織り子の養成を、南風原花織後継者育成事業では技術者の養成を行ってきた。



緋織りの様子

問 緋後継者育成事業の成果はどうか。

副町長 令和2年度から令和6年度までに研修を修了した方は25名、うち令和7年度6月時点で、工房で従事している方は21名になる。

問 残りの4名については、例えば、修了したけれども工房に就職しなかったとか、もしくは工房に就職はしたけれども、残念ながら事情があつて退職された方々になるのか。

産業振興課長 こちらの4名の方については、一度は工房のほうに配属されている。そういった中で継続できなかった理由としては、家庭の事情であつたり、賃金の低さ、そういったことではないかと組合のほうから確認している。

問 後継者育成事業の拡充というところだが、ベテランの織り子さんと修了したての織り子さんとは、織るスピード、またその技術力もだいぶ違うと考える。これで生計を立てていきたい方々にとっては生活も厳しく仕事として続けていくのは厳しいのではないか。緋を今後、向上普及させるためにも、修了生に工房に入つて1年程度は、給与、

収入面での助成金を出せるような育成事業の拡充を検討して頂きたいがどうか。



緋織りの様子

産業振興課長 本町もこれまで組合に対する補助金、後継者育成事業に対する補助金を、長い間継続している。今言つたような新たな部分に関する補助を考えるにあたり、まずは組合でこれまでの補助金はどう使つていくか考える必要がある、行政としては、国あるいは県などでそういった該当する補助金がないか検討していく事も必要である。また工房も事業所として人材を確保する経営力も重要であり、それが強い産地の形成につながっていくと考える。